



自然の解説者

自然の解説者
春季号 [第71号] 2021年4月12日

NPO 法人

ぐんま緑のインタープリター協会紙
事務局：〒371-0103 前橋市富士見町小暮
2425-28 櫻井昭寛方
電話・Fax 0274-42-2726
<http://inpuri.web.fc2.com/>
編集：総務企画部会

木育教室について

一般社団法人群馬県木材組合連合会 半藤 和之

令和2年度は、コロナ禍の中、2度にわたる緊急事態宣言が発令され、当連合会、傘下の木材組合、関連機関・団体で予定していたイベントがことごとく中止になり、木材PRの機会が失われました。そんな中、幼稚園児等を対象に「木育教室」を実施しましたので、ご報告させていただきます。

「木育教室」では、木材ということを強調せず、純粋に子供たちが作る、そして自分色に染めた作品にするということを主眼におきました。作るものは輪ゴムで組み立てる木製ペンスタンド、カスタネット、手回しコマの3種類を無償で提供しました。

実際の「木育教室」では、材料のほか、動物や水玉のシールを用意し、当連合会職員が作り方を説明しました。大人では何気ないことでも成長過程にある子供たちには出来ること、出来ないことがあるということを改めて認識しました。

子供たちは、私たちが作り方を教えると夢中になって作り、出来上がった作品をどういう意味で作ったのか、説明してくれました。仕事で行ったにもかかわらず、子供たちの屈託のない笑顔に癒され、貴重な時間を過ごさせていただきました。

「木育教室」は、10月12日から1月26日までに10園で開催し、1,271人の子供たちと触れ合い、事業としては大成功でした。幼稚園で希望したのは、ペンスタンド418個、カスタネット609個、手回しコマ397個です。(一人が二つ作った園もありました。)

職員には、ちょっと負担になるかもしれませんが、将来を見据えた中で、今年も実施したいと考えています。



校庭の樹木⑩

～魅惑的な花が咲くハクモクレンとシモクレン～

顧問 亀井 健一

我が家の隣にある小学校の校庭に、ハクモクレンの大木があります。3月下旬には純白の大きな花が咲き、夕刻太陽が西に傾くと校舎の南側が日陰に入り、暗いスクリーンのようになります。このとき花にはまだ日が当たり、増々白く輝きだします。白い鳩が群がるように見えたり、白い蝶が舞うように見えたりします。時間が経つのを忘れてしまうような一瞬です。ハクモクレンは、はなやかで魅惑的な花だと思います。

この花が目立つのは、春とは言えまだ寒さが残るころ、葉が開く前に大きな(直径約10cm)白い花が、咲くからです。花を手元に引き寄せて観察すると、花弁は肉厚で9枚あるように見えます。実は本来の花弁は6枚ですが、残り3枚は萼片が白色の花弁状になったものです。重量感がありとても豪華です。しかも甘い香りがあり、一層花を引き立てています。

ハクモクレンは古い時代に中国から渡来したと言われていています。モクレン科の落葉広葉高木で、樹高は15mほどになります。漢字では白木蓮と書き、白い花を蓮(ハス)の花に見立てたからです。この花をイメージしたのは、ハスの花は極楽浄土に咲く花とされ、昔から注目されていたからでしょう。

ハクモクレンの花によく似た紫色の花が咲くシモクレン(紫木蓮)があります。こちらは中国原産の落葉小高木で、花は直径10cmほどになります。両種の区別は花があれば、色が異なり一目瞭然ですが、花がないときは葉を見るとよいでしょう。ハクモクレンの葉身は倒卵形で丸みがあり、葉の先が急に短くがっています。シモクレンの葉身は、やや小さく楕円形や倒卵形で先がほっそりとがっています。いずれも外来種で、自生はありません。

モクレン科の樹木で似た白色花が咲くものにコブシやタムシバがあります。コブシは赤城山、榛名山などに、タムシバは谷川連峰や玉原高原など多雪山地に自生します。



ハクモクレン



シモクレン

ハクモクレン(左) シモクレン(右)

(2)

ハクモクレン、シモクレン、コブシ、タムシバなどは、つぼみの先がほんの少し北を向く傾向があります。それはつぼみが成長する過程で、光の当たる南側がよく成長するために全体として少し北を向いてしまうからです。このような植物を方向指標植物（コンパス・プラント）と呼んでいます。方位磁石がなくても、つぼみの向きから北の方向をおよそ知ることができます。

<自主研究会>

● ハイキング部

皆さんこんにちは、昨年度から当ハイキング部を運営することになった清水です。

ハイキング部は令和3年度会員数55名の大会所となり、会の連絡方法はメールで行っています。この会の主眼は会員各自が自然の中で楽しいハイキングを通じて「緑のインタープリター」としての知識の向上や会員相互の親睦にあります。

昨年度はコロナ禍のなかではありましたが、三密を回避し活動エリアを群馬県内に限定、車の乗合せも避けて、赤城六道の辻から鈴が岳などの人の少ないマイナーな赤城の8つのコース、県境トレイルの四阿山、谷川旧道ハイク、榛名山二つ岳や烏帽子、桐生アルプス仙人ヶ岳、富岡アルプス神成山など16回行いました。

今年度は会員の皆さんからの要望に沿い《難易度》の設定や親しみやすい低山を中心に3月～12月に渡り20回の実施を予定しています。

一緒にハイキングを通して仲間の輪や知識の窓を広げませんか。

● 高崎観音山の森整備

高崎観音山の森は櫻井事務局長が所有する、護国神社に隣接する1.7haの森です。

2018年12月より、インプリの森部会メンバーが中心となり、自主研事業として笹刈り作業を始めました。

3年目の今年度は、作業回数、参加人数も多く、新たに駐車スペースから入った右側の窪地の下草（笹）刈りが終了し、道路から見通しの良い綺麗な森になりました。3月中に登坂さんの協力を得て、桜や広葉樹の苗を植える予定です。

今後も整備作業を継続することで、笹やツタに覆われた暗い森から美しい森へと変身することを楽しみにしています。（酒井）



富岡アルプス神成山



観音山の森整備

<活動報告>

観音山ファミリーパーク植生調査 総務企画部会 県立観音山ファミリーパーク自然の森

- 1月19日（火）中央から北コース 12名参加。
- 2月16日（火）中央から南コース 14名参加、冬越しのウラギンシジミが見られた。
- 3月16日（火）中央から北コース 16名参加。カワズザクラが咲き、春本番も間近か。（大島）



会員資質向上研修⑨講演会「自然観察の仕方」 2月27日（土） 県立観音山ファミリーパーク 総務企画部会

協会員20名が参加して、ベテラン協会員の下田重雄講師による一般公開講座として実施しました。

多くの図鑑や現地での観察から自分のための資料を作成していること、マイフィールドを持つことの大切さや自然観察の指導の心構えを「自然観察の48手」として紹介してくれました。

緑のインタープリターとしての資質向上を求め続けることは大変ですが、楽しみながら学び、少しずつでも実践できたらよいと思いました。（櫻井）



緑の窓



赤城山覚満淵の周遊ガイドを始めました

第14期生 六本木 真弓

昨年「覚満淵の花ごよみ」が完成し、それに合わせて「赤城自然塾」赤城山環境ガイドボランティア」による、当日受付の赤城山覚満淵周遊ガイドが始まりました(土・日・祝祭日のみ)。この「花ごよみ」は、関係者が4年の歳月をかけて完成させたもので、108種類の草や木の名前、花の色、開花時期、主に観察できる場所を季節毎にまとめられ見やすくなっています。

覚満淵は一周40~50分で、水辺の木道と山側の木道が整備され、小尾瀬ともいわれる景観を楽しみ、湿原植物の観察をしながら散策出来ます。また、昨年12月には群馬県自然環境課により計画されてきた、森の中に車いすでも通れる木道が新しく造られ、長年利用してきた水辺の木道や水門と山側の遊歩道も再整備されました。

当日ガイドの予約申し込みも徐々に増えてきました。今年は、6月から10月までのガイドを予定しており、覚満淵の認定ガイドの育成も急務となって来てます。春のアカヤシオから始まり木々の芽吹き、ツツジウィークの6月、春から夏・秋の季節に咲く300種以上の山野草の花々を楽しみ、様々なシーンで、快適な遊歩道の散策を楽しめることは、覚満淵の魅力が一層グレードアップしたことと思います。



豆知識

雑草の話 20 ヘクソカズラ

理事長 関端 孝雄

前回の土手下に見られるつる植物からもう1つ。ヘクソカズラ(屁糞蔓、アカネ科ヘクソカズラ属)は日当たりの良い藪や土手など普通に見られるつる性の多年草です(図1)。それにしても、和名を漢字に表して見ると何と気の毒な名前ではないですか。茎葉などを揉んでみて初めてその臭気が解ることで納得なのですが、他にもこのような和名の植物がありますが、これらの幾つかは長い間には次第に名が変えられていくでしょう。例えば、「ヤブカラシ」が「ヤブガラシ」に、「ハマナシ」が「ハマナス」に、「ハリエンジュ」が「ニセアカシア」に、「モクセイ」が「ギンモクセイ」に、など沢山あります。ヘクソカズラは、花の中央部がお灸(ヤイト)のあとに似ているようで、「ヤイトバナ」の別名があります。段々こちらの名称に変わっていくかも知れません。一方、学名はラテン語で記され、標準和名と違ってひとたび公表されれば、属名などの変更が無い限り、変えることが出来ないという規則(国際植物命名規約)があります。

ヘクソカズラの茎は左巻きで他の草や木などに巻き付いて伸びます。葉は対生し細長い卵形かハート形で先は尖っています(図2)。葉柄の基部には左右の托葉が合わさった三角形の鱗片があります。葉腋から集散花序を出し、灰白色の花をつけます。花冠は釣鐘状で先は浅く5裂し、その表面は白い粒状の毛が生え、内側は紅紫色で多数の腺毛が密生しています。花冠(図3)の中には、1個の雌しべが子房の近くで2本に分枝して、花柱が花冠の外まで伸びており、更に短い花糸の雄しべ5個が収まっています(図4)。「屁糞かずらも花盛り」で、形も色も美しい花であることから「サオトメバナ」とも言われます。

花の構造を示す方法に「花式図」があります。図を書くのは中々(私は)面倒なので、「花式」で表すことが多いです。花を構成する部品の頭文字とその数で表します。萼(K)・花被(P)・花冠(C)・心皮(G)・雄しべ(A)が共通した記号です。部品が基部などで合着している場合は枚数を()付きに、子房が上位の時は心皮(G)に下線をします。例えば、アブラナの花式は $K4C4A2+4\underline{G}(2)$ です。この意味するところは萼片4、花弁4、雄しべ6で外側に2、内側に4を示し、雌しべは1個ですが心皮が2個合着していること、そして子房は上位ということです。同様にヘクソカズラは $K(5)C(5)A5\underline{G}(2)$ であり、アカヤシオは $K(5)C(5)A5+5\underline{G}(5)$ 、ユリ科は $P3+3C3+3\underline{G}(3)$ となります。他の花で観察してみてください。

ヘクソカズラの臭気のもととはメタンチオールで分子の中に硫黄(S)を含んでおり、それで異様臭いですがね。乾燥させれば臭いは消えてしまい、萼が変化した偽果皮で包まれた果実(核果)は艶のある黄褐色をし、ドライフラワーに良いようです。また、実にはしもやけやあかぎれの薬効があるといえます。



図1. ヘクソカズラ



図2. 葉の裏面



図3. 花冠



図4. 雄しべ(左)と雌しべ(右)

やちょうの「や」①

図鑑は使えないこともある

第1期生 粕川 昭久

まず写真(1)を見てください。これは2020年9月に立山で撮影したものです。一般の図鑑でこの鳥の名を探してもなかなか見つかりません。鳥を観察し、名を知ろうとします。そのとき頼るのが図鑑です。その図鑑の見方、使い方がわからないという問題が初心者にはあります。どこをどう探していいかがわからない。パラパラめくるがたくさん似たような鳥がいてどこに目的の鳥がいるのかわからない。図鑑は道具です。道具は扱う人によって良し悪しが分かります。道具なので好み、相性もあると思います。



写真1. なんの鳥かな

野鳥を図鑑で探すときに重要なのが「絞り込み」です。最初に「いつ」、「冬鳥か夏鳥なのか」これで約半分に絞られます。次に「どこで」海辺なのか山地なのか関東地方なのか九州なのか。さらに「どんな大きさ」でと絞られていきます。そして「どんな体の模様や行動」をしていたか。これを抑えるとかなり絞られてきます。これが図鑑を利用するポイントです。

日本で最も頼れる基本の鳥類図鑑は日本野鳥の会から出版されている「フィールドガイド日本の野鳥」です。高野伸二さんによって描かれた図版です。しかし現場で見ている鳥がこの図版の横向きの角度で見られるとは限りません。また鳥の個性、成長差もあります。次の写真(2)を見てください。これを見てすぐに鳥を特定できません。なぜなら図鑑に「風で羽毛がめくれたコガラの後ろ姿」は載っていないからです。図鑑は限られた姿そして省略された色でしか掲載されていません。そう言ったことでそれを補完する図鑑が近年多く登場しているのです。写真の図鑑、飛行形態の図鑑、鳥の声の図鑑、卵の図鑑などたくさんの図鑑が登場してきています。



写真2. 後ろの乱れ髪は誰?

図鑑は道具なのでくたびれたり、腐ったりします。年々外来鳥が増えてきたり、気候変動や生態系の変化によって変わってきているのです。そのため最新の図鑑が一番いいということになります。最初に戻りますが最初の写真はシロハラの子鳥です。幼鳥は成鳥と違った羽模様なんですね。このように図鑑は人の作った一つの道具です。「物差し」のようなもので、測りきれないサイズがあります。それを超えるものが自然には溢れているということでしょう。でも「物差し」一つもないと何もできません。だからできるだけ新しく、いい道具は必要なのです。

<協会の声>

ミミズ

第16期生 新井 翠

私は大学のときミミズのことについて学んだので、ここで少し紹介させていただきます。ミミズは目がありません。目見えず、メメズがミミズになったといわれています。ミミズは日本に500種類以上いますが、名前がついているものは2割以下で、名前のないものがほとんどです。カラマツミミズ、イチョウミミズなど植物名が入っていたり、サクラミミズやソラマメミミズと可愛い名前のももいます。中でも面白いと思ったのはフツウミミズとクソミミズです。フツウミミズはかなり珍しく、名前にあるようにどこでも普通に見られるというわけではないらしいです。クソミミズは蛇玉(へびだま)のように1匹でくねくねと絡まる習性があり、その見た目がそれに似ていることから名前がつけられました。さて、ミミズは主にフトミミズ科、ツリミミズ科、ジュズイミミズ科があります。環帯(成熟したミミズについている首輪のようなもの)の形や剛毛の配置によって見分けることができます。



ミミズは日常的に見かけますが、生態や分類は分からないことだらけだそうです。土を食べ、何を吸収してどのように消化しているのか、どんな栄養が必要なのか、私もミミズについてもっと知りたいと思いました。

<協会が実施する事業・研修会等>

実施日	内容	会場
4月18日(日)	第19回通常総会	花と緑の学習館
4月18日(日)	会員研修1 講演会「いのちの森づくり」	花と緑の学習館
5月9日(日)	会員研修2 赤城山自然体験メニュー研修	赤城山覚満淵周辺
5月16日(日)	「大人のための自然教室」開講式	憩いの森 森林学習センター
5月22日(土)	会員研修3 ネイチャーゲーム研修	憩いの森 森林学習センター
6月6日(日)	会員研修4 榛名山沼ノ原ガイド研修	榛名山沼ノ原
4月18日(土)、5月23日(土)、6月27日(土)	自然観察会	県立観音山ファミリーパーク自然の森
4月24日(土)、5月8日(土) 22日(土)、6月12日(土) 26日(土)	森林整備	サンデンフォレスト

<編集後記> 先日、八王子丘陵茶臼山をインプリの仲間とハイキングしてきました。ここは、亡き片山先生に誘われ初めて観察会に参加した思い出深い場所です。そして今回はカラタチバナ(百両)を初めて見られ、万両、千両、百両、十両の揃った縁起良い思い出の場所となりました。……アト一両 (茂木)